

ローターアクトとともに立とう

ローターアクト運動と環境保全

第2550地区ローターアクト委員会

委員長 田村春夫 (栃木)

1 「ローターアクトとロータリアンのシンポジウム」は次のような手順で計画され、今年の5月31日に実施の運びとなりました。

当2550地区は、1992—93年度より分割され、従ってローターアクトクラブ(RAC)も2550地区6クラブ、2820地区9クラブに規模が縮小してしまうので、何とかクラブの拡大を計らなければならないというのが、ロータリーとローターアクト両サイドの共通の願いでした。

91クラブのロータリーが15クラブのローターアクトしか持っていないということ自体が問題であり、新クラブの設立についていまだ持っていない76のクラブに考えてもらうには、どうしたらよいかということを討議致しました。その結果、ロータリアンとローターアクトが、共に考え話し合う場を設け、相互の理解を深めるのが、最良の方法との結論に達しました。

ローターアクトクラブの地区の会長幹事会にこのことを伝えますと、彼らの拡大への熱意も高く、ロータリアンとの討論の場を熱望しておりました。そこで91全部のクラブに呼びかける

ことになり、共通の討議テーマとしては、「共に行う環境保全運動」を選び、シンポジウム形式を取ることになりました。

分かりやすく問題提起

会議は、まず基調講演により分かりやすく問題提起をしてもらい、続いてロータリアンとローターアクトがほぼ同数の数グループを作り、特にテーマに向かってできるだけ具体的なアプローチを討議するという提案がローターアクト側からも出されました。誠に願ってもない形で計画が進みました。

基調講演者として板橋敏雄地区諮問委員からの推薦もあり、R I 環境保全委員会顧問(当時)の浜松東R C加藤恒七バスターガバナーにお願いし、ご快諾を頂きました。

2 本年5月31日の日曜日茨城県の「さしま少年自然の家」において、「共にする環境保全運動」をテーマにロータリアンとローターアクトのシンポジウムが開催されました。ロータ



ロータリアンとローターアクト90人参加のシンポジウムで、基調講演をする加藤恒七R I 環境保全委員会顧問(当時)。

「環境保全問題で、われわれのできる具体的な活動」をテーマに、ロータリアンとローターアクトがグループディスカッション



リアン40人ローターアクト50人合計90人の参加を得て、午前10時から午後4時まで、熱心な討議が展開されたのです。

電気自動車の緊急開発などである」と指摘されたのです。

環境を守りながらの経済発展も討議

加藤環境保全委員会顧問は、地球上の水はその98%が海水であり、真水は2%、飲料水は0.0014%にしかすぎない。それが次第に汚染されていくとすれば、環境の問題はまさに生命の問題としてとらえなければならない。2000年までに何も手を打たないでいたら、人類は間違いなく滅亡の方向に向かうだろうという切り出しで次のように、ユーモアを交じえて分かりやすく話されました。

「自然に優しく…とは自然が持っているそれ自身の回復力を邪魔しないようにすること、人間は今まで遠慮なくこのサイクルを壊してきた。人類が破壊してきた自然を直してこうという努力も大事だが、片や自然をそっとそのままにして、礼拝するという東洋的な考えも大切である。まず空気を大切に清浄にキープする、次に水をきれいにすると、さらに土壌が良くなる、そして緑が豊かになり、CO₂が酸素に置換されてゆく。この偉大な自然の循環を邪魔しないことだ。米国のブッシュ大統領は毎年10億本の木を植えてCO₂の置換を計ろうとしている。

同時にCO₂の発生を抑制していくことも最重要課題である。そのためには、大きな発生源の1つである自動車の運行を減少させることが必要となる。そこで提案したいのは新幹線のネットワークを張りめぐらすことによる大量輸送を考える、また大型バスの路線を増やしたり、

続いてロータリアンとローターアクトが20人くらいの5グループに分かれてディスカッションに入りましたが、①環境を守りながらの経済発展は可能か、②ゴミ問題につき、われわれのできるゴミの少量化、③ロータリアンとローターアクトが環境問題として何ができるか、を共通の話題として提示しました。

その結果、①苗木の配付をロータリアンと一緒に街頭に立つて行う(つくば学園RAC)。②リサイクル運動を、街頭に立つてアピールする。③名刺やガバナー事務所・各クラブ事務所の事務用せん、封筒また週報への古紙採用。等等具体的な提案が報告されました。

3 いよいよ新しい年度が始まり、小ぶりになったローターアクトの地区がスタートしましたが、今年度はそれぞれ最低3クラブ拡大を目指して努力中です。先日の地区委員会にて既に2クラブは創立総会に向けて準備を開始したとの朗報を得ました。また、足利東クラブは、来年5月に行われる足利祭りのページェントにローターアクトとともに山車を繰り出し、植樹とリサイクル運動の一大キャンペーンを計画しているとの報告もきております。

それもこれも、ひざを突き合わせてのグループディスカッションの効果ではないかと思っ喜んでいきます。